

令和7年度学校自己評価システムシート（県立ふじみ野高等学校）

w 1 4

目指す学校像	これからの時代をたくましく生きる知・徳・体を育むとともに、仲間とともに学習にスポーツ・文化活動に全力でチャレンジし、地域に元気・感動・夢を発信する学校
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> ICTの効果的な活用による授業改善を通して主体的に学習に取り組む態度や探究心を育成し、進路実現に繋げる。 自律的規範意識と他者を尊重する精神の涵養を通して豊かな心と健やかな体の育成を図る。 家庭、地域及び大学等の連携を充実させ、社会に開かれた教育課程の実現を図る。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	1名
	事務局(教職員)	11名

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (1 月 2 2 日 現 在)		
年 度 目 標		年 度 評 価			達成度	次年度への課題と改善策	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭学習時間が1時間未満の者が8割以上おり、ICT端末やアプリを活用している生徒も半数以下に止まっている。 第一希望の進路実現に向けて生徒一人ひとりの在り方生き方と関連付けた学びを支援している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組む態度と探求心の育成を図るとともに家庭学習の習慣化に向けた家庭との連携に取り組む必要がある。 個に応じた進路指導推進のため、第一希望への進路実現と探求活動をより深く行う支援体制を推進していく必要がある。 	<ol style="list-style-type: none"> ICTを効果的に活用した授業実践を通して主体的な学びにつながる授業の質の向上に取り組む。 生徒一人ひとりの在り方生き方と関連付けた探究的な学びを深化させる。 	<ol style="list-style-type: none"> 授業時間数を確保し、年間計画に基づいた授業内容を確実に実施する。 ①主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業を通じた学力向上を実践する。 ①課題や復習勉強会、苦手意識のある授業の復習等による自己学習時間を確保する。 ②入学年から計画的に進路探究を行い、自らの適性を発見させる。 ②個に応じた的確な情報提供と継続的な支援を継続する。 ②進路決定に向けた段階的できめ細かな進路指導を実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> 年間計画に基づいた授業を実施するとともに、年間授業時間数を確保できたか ①指導の工夫により、主体的に学ぶ習慣を育成できたか ①生徒の家庭学習時間は増加したか ②多様な進路選択を理解し、自身の適正に応じた計画策定ができたか ②進路実現と探究的な学びを関連付けられた生徒の割合が増えたか。 ②進路指導に対する生徒の満足度が増えたか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①祝日等による授業時数の不均等は正や学期当初・学期末の特編日程の工夫等により授業時間数を確保することができた。 主体的・対話的で深い学びを実感できた生徒の割合は78.4% (昨年73%) 生徒の家庭学習時間は1時間以上が倍増(10.4%→19.4%)したが、一方で0時間も(47.9%→58.3%)と増加するなど二極化が進んだ。 ②12月末現在での進路決定者は149名、大学51名、短大4名、専門学校等51名、公務員9名、一般就職34名 進路実現に向けて探究的な学びが実現できた割合は72.2% (昨年70.4%) 進路希望に応じたきめ細やかな指導満足度は、生徒83.2% (昨年85%) 保護者75.5% (昨年74.3%) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き主体的に学習に取り組む環境整備を行うとともに家庭学習の習慣化に向けた取り組みの強化を図る必要がある。 第一希望の進路実現を更に推進するべく、ICT等を活用した探究的な学びによる支援を検討する必要がある。
2	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動においては、2つの部活動でインターハイ優勝の快挙を果たした。生徒指導案件も減少し落ち着いた環境となってきた。 生徒一人ひとりにとって安全安心な学習環境の確保に努めている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習と部活動の両立とともに高い規範意識と自他を尊重する社会性の育成に引き続き取り組む必要がある。 個に応じた組織的な教育支援体制を継続し、スクールカウンセラーや外部支援団体等との連携を図りながら指導に取り組む。 	<ol style="list-style-type: none"> 高い規範意識を持ち自他を尊重する社会性を育成する ②生徒それぞれの多様な状況に対応できる組織的な支援体制を強化する 	<ol style="list-style-type: none"> 部活動の活性化と活動環境の整備を進める。 ①学級、各種委員会、学校行事等を通じて生徒が活躍する場面を創出する。 ②多様な生徒に対応するため、学校内での教育相談体制を構築する ②研修等を通して、全教職員に正しい知識を身につけさせる ②スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用し、早期の心のケアを実践する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒が積極的に部活動に参加できたか。 ①学校行事の満足度は高いものであったか。 ①各種活動に主体的に取り組めた生徒の割合は高いものであったか。 ②教育相談に係る事案を組織的に対応できたか。 ②研修を実施し、理解を深めることができたか ②早期な対応により効果的な取組ができたか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①体操競技部、水泳部において国民スポーツ大会での優勝をはじめ各部が熱心に取り組む成果を上げた。 学校行事の満足度は生徒53% (昨年57.3%) 保護者47.2% (昨年38.8%)、生徒の部活動、生徒会活動の満足度は75.4% (昨年71%) 保護者が部活動に意欲的に取り組んでいると思う割合は77.7% (昨年82.2%) ②教育相談委員会を定期的に開催し、支援が必要な生徒の情報共有や支援方法等の検討を行い、教職員が共通理解を持ちながらの指導体制を整備し、組織な対応を行うことができた。 スクールカウンセラー等の積極的な活用を通して効果的な取組を実施するとともに、外部NPO法人と連携した支援体制を整備した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学級減に伴う部活動や学校行事の円滑な実施に向けた検討と文武両道による自主自立の精神と規範意識の育成を継続する。 安全、安心な学校づくりを引き続き推進するとともに、組織的な教育支援体制を継続し、スクールカウンセラーや外部支援団体等との連携強化を図る。
3	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の大学・小学校との連携や生徒会や文化部を中心とした地元自治体への催し物への積極的な参加を行っている。 学校ホームページやSNSを利用して部活動の活動状況や大会結果などの情報発信に努めている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地域に1校」という特色を生かして、地元小学校・中学校も交えた「オールふじみ野」での教育を進めていく必要がある。 	<ol style="list-style-type: none"> ①地元教育機関と地元自治体との連携協働を進める ②各種広報媒体を活用して本校の特色を積極的に発信する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①高大連携プログラムを推進し、深化を図る。 ①地域との交流活動等に積極的に参加する。 ①学校評議員会や生徒及び保護者のフィードバックを教育活動の改善に繋げる。 ②学校ホームページや外部メディア等を積極的に活用し、効果的に教育活動を配信する。 ②生徒募集活動の工夫改善を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> ①高大連携プログラムの実施状況が推進できたか。 ①地域との交流活動への参加数が増えたか。 ①フィードバックを生かした教育活動の改善が図れたか。 ②情報提供を広く周知し、本校知名度を高められたか。 ②参加者の満足度は高いものであったか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①例年通り、文京学院大学、女子栄養大学、大東文化大学との連携プログラムを実施するとともに、武蔵丘短大と連携協定を提携した。 地元小学校への学習ボランティアをはじめ地元自治体行事への積極的な参加を行った。 「地域に1校」の強みを生かした地元自治体との連携強化について協議を始めた。 ②本校HPや公式インスタを始めとしたSNSを利用した情報発信により、進学フェア132名、学校説明会552名、部活動635名の参加、文化祭の入場者数は昨年比1.2倍であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「地域に1校」の強みを生かした地元自治体や関係機関との連携強化による本校の付加価値づくりの推進を図る必要がある。 本校の魅力さをさらにアピールするべく積極的に効果的でニーズにあった情報発信を行う必要がある。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日 令和8年2月2日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> 地域の施設を利用した学習時間の確保と習慣化も図れるのではないかと。 ICT、とりわけAIの活用については、使用を前提にしながら生徒のリテラシー育成を図る必要があるのではないかと。 第一希望への進路実現と全国トップクラスの部活動の活躍はとても素晴らしい。反面、部活動が物足りないという意識にも目を向けて欲しい。 第一希望への進路実現に向けて引き続き保護者との連携をお願いしたい。 覚えるだけによる知識や表現だけでなく、生活体験からの学びの基礎とした取り組みを大切にしてほしい。 生徒と先生の温かい関係の中で授業を進めているように感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事、部活動が盛んであり、特に文化祭はとても楽しく先生方が生徒をバックアップしている様子が窺えた。この楽しさをアピールする方法を考えたい。 生徒と保護者が満足している、期待している項目が同じであることは珍しい。魅力アップの可能性を感じる。 居心地の良い学校づくりのため、生徒の要望も聞き入れながら、地域と連携した盛り上げに期待した。 居場所づくりの成果は感じられる。より多くの参加に向けての宣伝と教職員も気楽に参加できる環境づくりを工夫したい。担当者の継続的なかわりごととSSWとのかわりも期待した。 校内環境整備の重要性を意識し、清掃等に力を入れて欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献などを通じた実学による地域連携を進めていくことが良いのではないかと。 部活動で地域と一緒に盛り上げができるのではないかと。 地元教育機関とのふれあいを大切にした関係は評価できる。 近隣自治体との連携も視野にいれるのも必要である。 実施している取組の成果を地域に報告したり、ポスターなどの宣伝物を貼りだしてもらうことを検討してはどうか。 	